

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・第3回将来委員会議事概要

- 日時：平成29年1月18日（水）15:00～17:00
- 場所：沖縄県 県庁4階 第4会議室
- 出席者：八重山サンゴ礁保全協議会（吉田稔）、中野義勝、WWF ジャパン（鈴木倫太郎）、自然保護課（金城賢）、藤田喜久、宮古島マリンリゾート協同組合（新村一広）
- 事務局：沖縄県自然保護課（出井航、中村章弘、古田さゆり）
- 運営委員：キュリオス沖縄（仲栄真礁）、沖縄県環境科学センター（山川英治）

【アンダーライン部分が決定事項】

【「・」は説明事項および提言事項】

【「→」は説明事項や提言事項に対する意見】

（1）第2回将来委員会の議事概要について

- ・第2回将来委員会議事概要を確認。

（2）法人化について

改めて法人化について各人の意見をきいた。

- ・協議会には資産がある。税金などの事務上の問題があるので、そのような問題を解決するには法人化する必要があると考える。ただし、法人化した場合は理事などに労務の負担がかかり、人件費なども必要になってくるので、別の問題も出てくる。
- ・任意団体だと中心となる人がいなくなると、活動が停止する恐れがある。法人化することで、会の継続性も出てくるのではないか？
- ・サンゴ礁保全を実施している団体へ支援をするには、協議会の認知度を高める必要があると感じている。
- ・基本理念などが維持できるのであれば、法人化してもよいと思う。
- ・自然保護課でも協議会の専任者を配置できない。協議会の活動を継続するには、法人化をして専任者を配置する必要があると思う。
←事務局が沖縄県自然保護課であることは、寄付先として協議会が選択されている大きな理由の一つになっていると思う。法人化すると事務局が沖縄県自然保護課でなくなるので、デメリットではないか？
- ・協議会が法人になった場合、個人でないと会員になれないのか？
→法人の種類によって異なる。NPOは団体で加入することができない？社団法人は団体で加入することができる。
→各法人格のメリットなどを整理してはどうか？
- ・問題がなければ現状でよいが、法的に問題があるのであれば、法人化する必要がある。
- ・日本サンゴ礁学会の場合。任意団体だと法律的行为ができない。物を買ったり、アルバイト代を支払ったりということが、全て会長の責任となる。人を雇ったときの源泉徴収や出版物の納税義務があり、利益が出た場合は所得税もかかる。税務署などの監査があった場合、会長個人が法的な責任を問われる恐れがあった。社会的責任として果たすべき義務がある。日

本サンゴ礁学会は法人化に向けて動き出している。

→会長の責任が重すぎて、誰も会長になりたくなくなる。

- ・法人化することが目的ではなく、協議会としての目的を達成できるかということが大事。
- ・現在の協議会の支援は限られたものになっていると感じる。活動の規模を広げるのであれば、法人化が必要。
- ・NPO 法人の設立には時間がかかる。
- ・お金を扱う必要があるなら法人化する必要がある。ネットワーク的な役割のみであれば、法人化する必要はないかもしれない。
- ・サンゴ礁ウィークに参加するような小さな団体を支援することは大切だと感じる。お金の支援を必要としている小規模な団体は多い。誰でも参加できて、公平正を保つことは協議会として大切。
- ・自然保護課には一般社団法人沖縄県猟友会が席を置いている。協議会が法人化した場合にも同様な仕組みを県庁内でできるかもしれない。自然保護課も関与しやすいし、対外的にも信用が保てるのではないか？実現できるかどうかは分からないが、望ましい形ではないか。
- ・阿蘇草原再生募金は非常にうまくいっている。

→阿蘇草原再生協議会は自然再生推進法に基づく手続きを踏まえ、組合や行政、研究者など 103 の個人および団体の参加により、平成 17 年 12 月 2 日に「阿蘇草原再生協議会」として発足。阿蘇草原再生協議会の阿蘇草原再生募金は、公益財団法人阿蘇グリーンストックが募金事務局となっている。

阿蘇草原再生協議会<<http://www.aso-sougen.com/kyougikai/index.html>>

公益財団法人阿蘇グリーンストック<<http://www.asogreenstock.com/>>

- ・法人化する理由が、協議会の活動を継続する上でお金を扱うことが必要だがそのままと法的な問題があるのであれば、お金を使わずに協議会の目的（サンゴ礁保全に関わる人達が議論する場など）を達成することができないか議論してみてもどうか？
 - お金があれば活動を拡大できるが、お金がなくなることもある。（また、法人化した後の資金の担保など議論する必要があるのではないか？）
 - お金がない状態では事務局を維持することもできない。事務局がなければ、サンゴ礁保全に関わる人達に門戸を開くこともできない。
 - 海辺の環境教育フォーラムのような単特事業を繰り返すことはできるのではないか。
 - 海辺フォーラムの形態は、毎回主催者や開催場所も異なるので、協議会の目的を達成する形態にはそぐわないのではないか。
 - 協議会の活動を広げなければならないが、お金がないことが前提だと活動を広げることができない。今はアラムコからの寄付金があるから成り立っているが、寄付金をもっと増やすことが会員を増やしたり活動を活発化させることにつながるのではないか。
 - 地域の活動を支援するメニューに支援金などのお金は重要。
 - ゆるやかな繋がりを維持するにはお金が必要で、お金がなくなると繋がりを維持できなくなる。お金が無くなる前に、法人化をして組織を維持できる方向に持っていく必要があるのではないか。
 - クラウドファンディングなどを利用すれば、寄付をしてくれる人はいると思う。
 - ・法人化するという事は今回の委員会で決定とする。

- 法人格の種類などは次回の将来委員会で議論する。
- 総会前までにやらなければいけないことを整理する。
- 法人化にあたり、規約の修正が必要な部分を整理する。

(3) その他

- 理事の数が多すぎることや総会の重要性が理解されていない現状は改善しなければならない。
- 次回の将来委員会はサンゴ礁ウィーク実行委員会の反省会などと同じ時期に開催する。3/24か3/31あたり。